

戦旗

11月20日
週刊
第249号
発行所 戦旗社
定価 20円
郵送料別

☆帝國主義国、後進国、「労働者国家」
三ブロック階級高争を
世界プロ独一世界共産主義の勝利へ！
共産主義者同盟

12・7 A I F 総決起集会に結集し新潟現地へ

11・15
日比谷野音

沖繩国政参加選挙粉砕闘争 「沖繩闘争論」めぐり諸派の混乱拡大

【東京20日電】「沖繩闘争論」をめぐる諸派の混乱が、11月15日、日比谷野音で開かれた「12・7 A I F 総決起集会」で、ますます拡大した。この集会には、反帝戦線、11・14自衛隊パレード粉砕、11・15諸派を領導、沖繩国政参加選挙粉砕闘争などの各派が参加し、激しい論争が展開された。

11・14 反帝戦線八〇単独で 防衛庁攻撃闘争

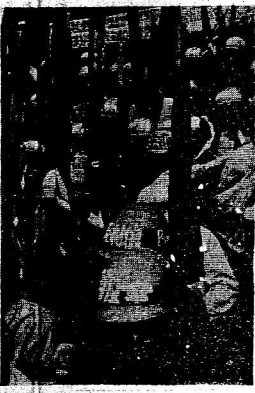
【東京20日電】反帝戦線は、11月14日、防衛庁を攻撃する闘争を行った。この闘争には、反帝戦線単独で約80人が参加し、防衛庁の建物に卵や石を投げつけた。また、防衛庁の職員に対して罵詈雑言を浴びせた。この行動は、反帝戦線の主張を宣伝し、防衛庁の攻撃を目的とした。

反帝戦線・群馬でも進撃 11・14自衛隊パレード粉砕に決起

【東京20日電】反帝戦線は、11月14日、群馬県でも進撃した。この日、群馬県庁前で行われた自衛隊のパレードを粉砕する決起が行われた。参加者は、パレードの進行を妨害し、自衛隊の士気を挫いた。この行動は、反帝戦線の主張を宣伝し、自衛隊の攻撃を目的とした。

11・15 諸派を領導 ——仙 台—— 沖繩国政参加選挙粉砕闘争

【仙台20日電】仙台では、11月15日、沖繩国政参加選挙粉砕闘争のリーダーシップを執った。この闘争には、仙台市内の各派が参加し、激しい論争が展開された。参加者は、選挙の公正さを確保し、選挙結果を粉砕することを目的とした。



11月15日、日比谷野音で開かれた「12・7 A I F 総決起集会」の様子が写っている。

日帝の軍事外交路線に対決しえぬ 諸派のフラグマチズムを粉砕せよ

【東京20日電】日帝の軍事外交路線に対決しえぬ諸派のフラグマチズムを粉砕せよ。この集会では、日帝の軍事外交路線を批判し、諸派のフラグマチズムを粉砕することを目的とした。参加者は、日帝の軍事外交路線を批判し、諸派のフラグマチズムを粉砕することを目的とした。

12・7 A I F 総決起集会

日時 十二月七日 午後五時半
場所 中野北公会堂
主催 日本反帝戦線

日本反帝戦線

錯乱の超主観主義

革労協・社会党解放派批判

上

「超主観主義」は、主観主義の一種である。主観主義とは、客観的実在の存在を認めず、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、この主観主義を更に徹底し、客観的実在の存在を完全に否定し、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、主観主義の一種である。主観主義とは、客観的実在の存在を認めず、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、この主観主義を更に徹底し、客観的実在の存在を完全に否定し、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。

戦略なき青年ヘーゲリヤンの社会革命主義の敗北

「超主観主義」は、主観主義の一種である。主観主義とは、客観的実在の存在を認めず、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、この主観主義を更に徹底し、客観的実在の存在を完全に否定し、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、主観主義の一種である。主観主義とは、客観的実在の存在を認めず、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。超主観主義は、この主観主義を更に徹底し、客観的実在の存在を完全に否定し、一切の知識と価値を主観者の意識に還元する思想である。

戦旗 次号より四頁化へ

「戦旗」編集局

「戦旗」編集局は、次号より四頁化へ変更する。これは、戦況の激変と、読者の負担を軽減するためである。編集局は、今後も高品質の戦況報道を提供し、読者の支持を得ていく方針である。

年末二時三十分切を

共産主義者同盟

共産主義者同盟は、年末二時三十分切を決定した。これは、戦況の激変と、読者の負担を軽減するためである。同盟は、今後も高品質の戦況報道を提供し、読者の支持を得ていく方針である。

理論戦線

十二月十日発売 予約受付開始
10号 「党の革命」の更なる推進と 恒常的武装闘争の進撃に向け

- 第一報告 〇共産主義者同盟
I 軍事をすみ共産主義を組織する鉄の革命党建設にむけて 日向 翔
- II 共産主義論「論争の止揚のために」 向田 新
- III 解放派の政治的解体のむけて 和 光 明
- (補) 第一次共産同への自己の関りの総括と第三次共産同への道 鴨 井 兼
- 補「過渡期世界の革命党」への理論的諸前提 野 田 晋
- 第二報告 〇共産主義者同盟
I 現代帝國主義論への基礎 視座 藤田 雪絵
- II 現代ソ連論序説 青 木 達
- III 恒常的武装闘争の深化と叛軍闘争 一色 学
- IV 日帝の軍事外交に反対する叛軍・入管闘争の任務 中 村 進
- 第三報告 〇共産主義者同盟
I 七〇年代型地共闘論の深化のために 城 山 徹
- II 叛軍行動委建設にむけて 北 見 隆
- III 第二次共産同の組織総括の深化のために 伊 勢 洋
- IV 社会主義学生戦線「プロ」第四報告 赤 井 文人
- 第四報告 〇共産主義者同盟
I 総括 II 情勢 III 任務
IV 日本反帝戦線行動綱領
A 5 版 三三〇頁
四〇〇円 千七百円

東京都千代田区三崎町一七七一
電話 社 報 二六二二〇